

平成23年12月20日

日本弁理士会
会長 奥山 尚一 様

知的財産価値評価推進センター
センター長 石田 喜樹

経済産業省の知的資産経営 WEEK2011 参加イベント「知的資産経営フォーラム 2011in 仙台」が終了したので、別紙のとおり報告いたします。

知的資産経営 WEEK2011 参加イベント
「知的資産経営フォーラム 2011 in 仙台」
負けるな東北!!

知財の創生・活用・発展で、復興に活かそう知的資産経営
～ 知的資産経営の推進と震災復興支援 ～

1. 日 時：平成 23 年 11 月 22 日（火） 13:00-17:00 (フォーラム)
17:15-18:40 (交流会)

2. 場 所：ホテル白萩（宮城県仙台市青葉区錦町 2-2-19）
フォーラム：萩の間、交流会：けやきの間

3. 主 催：日本弁理士会

4. 後 援：経済産業省、東北経済産業局、特許庁、中小企業基盤整備機構、
日本商工会議所、(社)全国地方銀行協会、(社)全国信用金庫協会

5. 人 数：100名募集（申込総数：94名（事前：74名、当日：20名）

6. 内 容：以下のとおり

(1) フォーラム 13:00-17:00

13:00-13:05 主催者挨拶 正林 真之（日本弁理士会 副会長）

13:10-14:10 基調講演

EMによる国づくり

～東日本大震災の復興へ向けて現実への対応と未来像～

講師 比嘉 照夫 氏

（名桜大学教授、国際 EM 技術研究所所長、琉球大学名誉教授）

14:10-14:25 休憩

14:25-14:40 東北地方の知財事情

佐藤 薫 氏(東北経済産業局 地域産業技術課 特許室 特許室長)

丸岡 裕作（日本弁理士会東北支部支部長）

14:40-15:00 日本弁理士会提案

森 泰比古(日本弁理士会知的財産価値評価推進センター副センター長)

15:00-16:55 パネルディスカッション

「知的財産価値評価を通じた知的資産経営の推進と震災復興支援」

パネラー 織田 金也 氏 ((株)向山製作所 代表取締役)

晴山 裕一郎氏 ((株)北日本銀行 営業統括部 地域事業支援室 調査役)

齋藤 節朗 氏 ((財)中小機構東北)

細谷 淳 氏 ((株)産業革新機構 技術企画グループ マネージングディレクター)

森 泰比古 (日本弁理士会知的財産価値評価推進センター 副センター長)

コーディネーター 石田 喜樹 (日本弁理士会知的財産価値評価推進センター センター長)

16:55-17:00 閉会挨拶 大津 洋夫 (日本弁理士会知的財産価値評価推進センター 副センター長)

(2) 交流会 17:15-18:40

7. 概要:

(1) フォーラム 13:00-17:00 (参加者: 93名 (関係者含む))

○基調講演 (比嘉照夫氏)

- ・EM技術のメカニズムについての説明
 - ・ベラルーシでの内部被曝に対するEM技術活用の実例の紹介
 - ・東日本大震災における東北地方でのEM散布の実例の紹介
 - －気仙沼等でのEM散布の実例
 - －田への塩害対策としてのEM散布の実例
 - －校庭や畠へのEM散布の実例
 - ・質疑応答
 - －なぜこのような技術が広がらないのかについて
 - －飲み水に対するEM技術の活用について
 - －畠でのEMの使用量について
- などについて、活発な質疑応答がなされた。

○東北地方の知財事情

・佐藤氏

－円高影響企業、中小企業等への支援施策、知財に関する人材育成事業、知財総合支援窓口の紹介、等の説明がなされた。

・丸岡支部長

－東北地方での出願件数及び弁理士数についての説明、東北支部での支援活動（無料相談会、セミナー開催、被災企業向け出願援助等）についての説明がなされた。

○日本弁理士会提案

・知的資産とはそもそも何か、知的資産経営における弁理士の役割、知財価値評価による知的資産を推進・向上させるためのスキーム案、簡易抽出型コーヒーを例に基本メニューについてのケーススタディ、知的資産経営Weekを仙台で行うことの意義、などについての説明がなされた。

○パネルディスカッション

- ・知的財産価値評価推進センターについての説明（石田センター長）

・パネラー自己紹介

－晴山氏

- ・融資による支援
- ・地域事業支援室の取り組み、（いわて産学連携推進協議会（リエゾン）、知的資産担当人材の育成補助、等）についての説明
- ・社長の頭の中の整理のお手伝いをして、課題抽出、専門家との連携を図っている。

－齋藤氏

- ・補助金、助成金による支援
- ・農商工連携、地域資源活用事業、新連携事業の紹介
- ・中小機構の支援内容の説明

－細谷氏

- ・投資による支援
- ・ジャパンディスプレイの再編の事例紹介
- ・知財ファンド設立の事例紹介

・日本弁理士会提案についての質疑応答

－晴山氏

- ・経営を見るという視点から始めること、経営者と共通認識を持つことが大切だと思う。

－齋藤氏

- ・知的財産を的確に評価する、知財や事業を「把握」することで、事業計画をプラスアップする際に弁理士が関わるのではないか。
- ・農商工連携、新連携において特許の話が出てから弁理士が登場するのではなく、もっと早くから関与するのがよいと思う。

－細谷氏

- ・日本弁理士会提案の内容は「王道」だと思う。
- ・ベンチャー企業の経営に関わっていた頃、社内に特許委員会を設け、報奨制度の設計やエンジニアに対する社内啓蒙活動を顧問弁理士にお願いしたことで、特許に対する社内の認識が高まった。

・向山製作所の説明（織田氏）

- －100万円の資本金を元手に設立
- －LCDオートチェンジャーで成功、しかし、通信カラオケの登場で仕事が激減
- －調理学校への2年間の通学
- －ITバブル、携帯電話微細電子部品組付け技術
- －味覚センサー：一定の基準で味覚を規格化することとなってしまい事業化が困難に。
- －生キャラメル生産の開始
- －リーマンショックにより仕事量が20%に。
- －東日本大震災の影響：風評被害。月販600万円が当面の目標。現在は半分まで行っていない。年商一億の生産ができる設備はある。資金は今後必要になってくると思う。

・向山製作所の生キャラメル事業への支援策提案

－晴山氏

- ・今後の展開は？

－織田氏

- ・人が財産と考えているので、工場はできれば今の場所だけで事業を継続したい。
- ・今までの販路はブランド化を含めた投資的要素の販路。安定販路がほしい。
- ・ビジネスマッチング、小売の事業計画に基づく設備投資でお手伝いできるかもしれない。

－齋藤氏

- ・事業ドメインの見直しを行い、生キャラメルクリームをチューブにする等の新商品の開発を行えば、補助金の対象となるかもしれない。
- ・ある県の農産物を用いてその県で売るというアイデアであれば、新連携事業となる可能性がある。

－細谷氏

- ・アイデアのおもしろさが重要
- ・織田様：中国やモンゴルへの展開もやってみたい。

－森副センター長

- ・ソフトキャラメルの特許調査：もずくキャラメルの製法、エゴマを用いたキャラメルの製法の出願例がある。特許出願を行っていくという手もあると思う。
- ・取引先を安心させるためには、「向山製作所」の生キャラメル、ロゴマークについて商標登録出願をした方がよいと思う。

－織田氏の感想

- ・自社と知財との関係にピンときていなかったが、実はいい知財が自社にあったんだと自覚できた。

・フリーディスカッション

－織田氏

- ・円高で電子部品産業が守れるのか。日本の炭鉱もコストという観点で1つもなくなってしまった。同じスタッフで事業を行うことができるような、乗り換えることができる船を作っている。

－細谷氏

- ・電子基盤メーカーならではの視点、あえて福島を前面に押し出した戦略、デパートにこだわらない販路、アジアの富裕層や子供への販路を考えてみる必要があると思う。SNSの活用も考える必要がある。味覚センサーをキャラメルにバンドルして販売してみるのもいいかも。ユーザドリブンで話題になっていく戦略。

－齋藤氏、森副センター長

- ・飛驒のエゴマを用いて向山製作所で生産してさらに別の県の販社から販売することで農商工連携事業となるのではないか。

－今日のパネラー皆で協力して向山製作所を支援していく必要があるとの共通認識がなされた。

・弁理士に望むこと

－晴山氏

- ・資金が向かうべきさきにきちんと資金が提供されるよう知財の目利きをしてほしい。
知財の流通市場を作つてほしい。

－齋藤氏

- ・既存技術の評価に基づく新規事業の提案に弁理士が積極的に関わつてほしい。

－細谷氏

- ・単に特許を取得するというだけにとどまらず、特許を何のために取得する、特許を何に使うという観点を今後は考えていくべき。知財流通のマーケット創出へのイニシアティブをとっていただきたい。

(2) 交流会 17:15-18:40 (参加者: 37名 (関係者含む))

石田センター長の挨拶の後、乾杯、歓談、30秒自己紹介など、フォーラム参加者との交流が行われた。

8. アンケート結果:

(1) 回答総数

44名 (弁理士11、一般30)

(2) 本日のフォーラムは何でお知りになりましたか

1. チラシを見て	5
2. 新聞記事	2
3. 知人	12
4. HP	4
5. DM	7
6. その他	10

(3) 本日のフォーラムについて

A. 総体的に

1. 大変参考になった	19
2. 参考になった	15
3. あまり参考にならなかった	1

B. 基調講演「EMによる国づくり」

1. 大変参考になった	23
2. 参考になった	13
3. あまり参考にならなかった	3

C. 「東北地方の知財事情」

1. 大変参考になった	11
2. 参考になった	19
3. あまり参考にならなかった	6

D. 「日本弁理士会提案」

- | | |
|-----------------|----|
| 1. 大変参考になった | 12 |
| 2. 参考になった | 22 |
| 3. あまり参考にならなかった | 2 |

E. パネルディスカッション

- | | |
|-----------------|----|
| 1. 大変参考になった | 20 |
| 2. 参考になった | 15 |
| 3. あまり参考にならなかった | 0 |

(4) 弁理士に対する認知度及び期待すること

A. 本日のフォーラムに参加する前

- | | |
|-----------------------------------|----|
| 1. 存在を知らなかった | 13 |
| 2. 存在を知っていたが、知的資産経営に関与することは知らなかった | 4 |
| 3. 存在を知っており、知的資産経営に係わることも知っていた | 0 |

B. 本日のフォーラムに参加した後、弁理士に期待すること

- | | |
|------------------------|---|
| 1. 発明発掘など技術寄りの支援を期待したい | 0 |
| 2. 経営全般を視野に入れた支援を期待したい | 4 |
| 3. 特に支援は期待しない | 0 |
| 4. その他 | 0 |

9. 総括

今回は、仙台開催という初の試みであったが、関係者の協力により、定員100名に対して、申込総数94名、実際の参加者93名（関係者8名含む）で開催することができた。

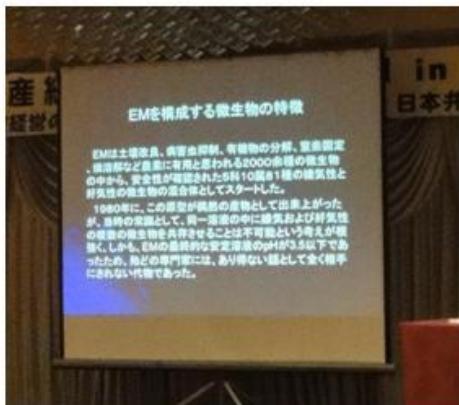
アンケート回答の特記事項、交流会での歓談におけるコメントでも、仙台でのフォーラム開催に期待する声があり、弁理士が町へ出ることの大切さを実感した。

なお、フォーラム終了後作成し、正副センター長会議に提出した速報を添付する。

以上

知的資産経営フォーラム2011in仙台速報

① 基調講演 EMによる国づくり～東日本大震災の復興へ向けて現実への対応と未来像～



休憩時間



② 東北地方の知財事情



③ 弁理士会提案 14:40~15:00



第3部－1 日本弁理士会提案の説明(14:40～15:00／20min)

(○) プロローグ

① 知的資産・知的資産経営とは

無形資産

ex.) 個人情報、電話加入権等

知的財産

ex.) 人的資源、組織力、経営理念、顧客とのネットワーク、技術等

知的財産権

ex.) ブランド、商号権、ノウハウ等

「企業における競争力の源泉である
人材、技術、組織、知的財産(特許・ブランドなど)、組織力、
企業理念、顧客とのネットワーク等、財務諸表に表れない
經營資源の総称」

→特許などの知的財産権だけ
を示すものではない

着目すべきは、その存在と事業価値の創出にむけて
どのような活用の連鎖(知的資産経営)が
企業側で構築されているか

④ パネルディスカッション 知的財産価値評価を通じた知的資産経営の推進と震災復興支援



融資・助成・投資の各立場から…



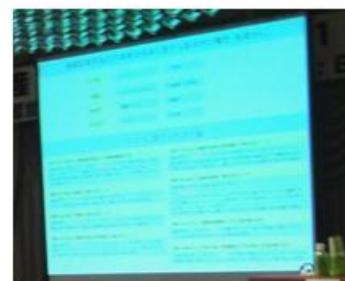
向山製作所とは…



パネラーも、参加者も、生キャラメルを食べてみる…



弁理士の立場でできること…



熱心に聴講する参加者…



講師・パネラー含めて93名が参加